

第五次津田地区地域福祉活動計画

津田地区社会福祉協議会

平成31年3月

《はじめに》

津田地区社会福祉協議会では、平成 14 年度に第一次福祉活動計画を策定して以来、第二次・三次福祉計画と、福祉目標を『住民主体の福祉活動をすすめ、支えあい・助け合う活動を通して、この地域に住んで良かったと実感できる地域づくり』とした。また、第四次福祉計画では、福祉目標を『こころ触れ合う福祉のまち津田』とし、津田地区に暮らすすべての人たちが心を通わせ、支えあうまちになるよう努めてきました。

高齢者福祉へのニーズが特に高まっていた以前に加え、近年では青少年の健全育成、乳幼児を持つ親の子育て不安の解消、障がい者・障がい児の地域参加活動支援、成人の生活習慣病予防など、地域健康福祉への期待が多様化してきました。

また、町内会自治会への加入率は年度を追うごとに減少し、本福祉活動計画策定年である平成 30 年度には加入率が 47.0%と、福祉活動に限らず津田地区全体の諸活動を推進するうえでの課題となっています。

これらのことをふまえ、第四次福祉活動計画では、現代の多様化した生活環境のなかで暮らす方々へ、気持ちのこもった温かい応援・支援の手を伸ばし、お互いにこころを通わせ、お互いに支え合い、誰にとっても優しいまちになるようにしなければなりません。

《津田地区の概要》

津田地区は松江市街地の東南部に位置し、堀尾氏による松江開府以来、都市近郊部の農業地帯として、住民の大部分が農業によって生計を保ち、かつて「津田かぶ」などの産地として有名であった如く、松江市の重要な野菜その他の供給地でありました。

戦後、地の利と交通の便、都市近郊の有利な条件に恵まれた当地区は、社会構造や産業構造の急変にともなって、住宅地化、商工業地化していち早く都市化現象の波に洗われ、農業従事者が二次三次産業に転業し、農業離れの最も著しい地帯となりました。

また、西津田、東津田を横断する国道 9 号線沿いには自動車企業のほとんどが進出し、近年開通した松江バイパス自動車道の津田インター付近には、島根県合同庁舎、島根県生涯学習センターが建設され、最近では高層マンションが何棟も立ち並んでいます。そして、東津田地内を南北に走る縁結び大橋だんだん道路も平成 24 年 3 月に開通し、津田地区の様相はこれからまだまだ変貌しようとしています。

津田地区の自治会組織は東津田、西津田の 29 の町内会自治会が組織されています。

世帯数は 6,113 世帯、人口 13,468 人（平成 30 年 4 月 30 日現在）と、松江市 29 地区の中で 4 番目の大規模地域です。

《津田地区の課題》

- ① 近年のアパートや大型マンションの建設で、他地区、他府県からの転入者が増え、平成 25 年（第四次福祉計画策定時）に比べ世帯数は約 240 世帯増えましたが、人口はほぼ横ばいであります。
- ② 高齢化が進み、65 歳以上の人口は 3,296 名と平成 25 年に比べ約 380 人増え、人口比にして 24.5%と今後高齢化がさらに進むことが予想されます。
- ③ 子どもたちは独立して県外に転出したり、他地区で暮らす人も多いため、高齢者夫婦、一人住まいの高齢者が増え、やむを得ず高齢者住宅や施設に入居したり、病気になったりして、住み慣れた我が家を離れる人も増えてきています。
- ④ 昭和 40 年代に造成された高台の住宅が多く、運転免許を返納して車の運転をしなくなった高齢者にとっては買い物、通院など日常生活に困難が生じています。
- ⑤ また、地域で発生するさまざまな課題への対応ができる担い手が、住民の高齢化により不足し、またアパート、マンション住民の自治会未加入が際立ち、自治会運営の継続が今後懸念されます。
- ⑥ 近年、住民同士の助け合い、支え合いがますます重要になってきますが、30 年度実施した「ふれあいアンケート」によると「あなたのご近所の方とどの程度の付き合いをしていますか」の設問について、「あいさつをする程度 29.2%」「ほとんど付き合いがない 2.7%」を合わせると 30%を超え、また「お茶を飲んだり誘い合ったりする人がいる」と答えた割合が、平成 13 年度には 23.9%だったのに対して、今年度は 12.1%とほぼ半減しており、近所付き合いの希薄化が懸念されます。
- ⑦ 少子高齢化や地域社会の変化に伴い、地域のつながりが希薄化するため「なごやか寄り合い事業」が 11 地区立ち上がっていますが、活動内容のマンネリ化、財源確保等の課題があり、未実施地区に於いては活動会場がない、スタッフが集まらない等の課題があります。
- ⑧ 今回、アンケートを実施し「地域住民による助け合い制度」、「子どもに対する支援・サービス」、「障がい者に対する支援・サービス」を求める声が増えていました。今後は高齢者のみならず、子育て・障がい者の方など全世帯に福祉の手が差し伸べられるよう協議・検討する機会を設ける必要があると思います。

《津田地区地域福祉活動計画の概要》

[スローガン]

『こころ触れ合う福祉のまち津田』

津田地区に暮らす全ての人がこころを通わせ、「福祉」を自らの課題として受け止め、お互いが支え合い、誰にも優しいまちになることを期待しスローガンとしました。

〔津田地区地域福祉活動計画〕

※別紙「活動計画表」参照

今までの地域福祉活動の反省やグループワークを通して、地域の現状や課題を整理し、活動内容の改善や各組織の連携などの見直しを行いました。

《添付資料》

- 活動計画表 (資料No.1)
- 第五次津田地区地域福祉活動計画策定委員名簿 (資料No.2)
- 第五次津田地区地域福祉活動計画策定委員会経過 (資料No.3)
- 津田地区基本データ (資料No.4)
- 第四次活動計画ふりかえりシート (グループワークまとめ) (資料No.5)
- アンケートの結果について (資料No.6)

第5次津田地区地域福祉活動計画表

スローガン（福祉目標） **こころ触れ合う福祉のまち津田**

①高齢者が安心して暮らし続けることのできる地域づくり

活動名	目 標	目標達成に向けての取組み
なごやか寄り合い事業	<ul style="list-style-type: none"> ・なごやか寄り合い実施地区の増加 ・各なごやか寄り合い会及び世話人への情報提供や運営支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施地区への働きかけ（なごやか寄り合いの意義や事業説明、実施地区の活動内容の紹介、町内会へ呼びかけ） ・情報交換会の開催、各なごやか寄り合い同士の見学・交流の促進 ・集いやすい活動場所についての検討
ボランティア喫茶	<ul style="list-style-type: none"> ・団らんの場、打合せの場、情報提供の場として活用する（自由に集う憩いの場） 	<ul style="list-style-type: none"> ・なごやか会、福祉推進員他各種団体にボランティア喫茶の案内 ・行事や健康づくりなどのチラシ配付
独居高齢者見守り支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・友愛訪問の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・小学校に協力依頼をし、子どもたちに手紙を書いてもらう。 ・花の苗をきっかけに話題づくり、関わりの継続につなげる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニデイサービスの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児との交流も取り入れ、内容を工夫しながら実施 ・民生児童委員、福祉推進員、食生活改善推進員と協力して実施する。

②地域との触れ合いを通し、皆が健康で豊かなこころづくり

活動名	目 標	目標達成に向けての取組み
子育て支援（母子保健推進員）	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実 ・情報提供体制の強化 ・広報「津田地区子育て応援団」の認知度をあげる、広める 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内スーパーなどでのチラシの掲示依頼 ・津田地区子育て応援団チラシの回覧 ・世代間交流の促進、公民館等事業への積極的参加を呼び掛ける（公民館文化祭、納涼祭、七夕、踊って歌って楽しいかい等）
健康つだ21	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの推進と広報の強化 ・健診受診率向上（1%/年UP） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健協力員の組織化 ・健康体力チェックの実施 ・健康体力チェック出前講座の実施と各町内会へ働きかけ ・健診率向上のための活動、PR ・検診日に合わせて、健康チェックの実施 ・各世代に向けた食育講座・健康づくり講座開催 ・健康ウォーキング教室の実施 ・軽体操・脳トレの習慣づくり

③支援が必要な人を取りまく環境づくり

活動名	目 標	目標達成に向けての取組み
福祉推進員の会	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の見守り活動 ・支援対象者を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・交流会を実施し、推進員同士のつながりをつくる ・信頼を得た見守り活動が出来るよう、2年任期で引き受けていただくよう活動内容について自治会に広報を行う。 ・独居高齢者だけでなく、要支援者（障がい者（児）含む）で平時見守り希望の方を自治会と協力しながら見守る
民生児童委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の知識及び技術の向上 ・関係団体との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会等による研修の充実に努める。 ・民生児童委員、福祉推進員、町自連、地区社協など、連携・協力・情報共有を行う。
障がい者(児)の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ミントの会など活動団体支援の強化 ・障がいに対する理解の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいに対する講習会・懇談会の実施 ・会、社協、学校、福祉施設なども含めた話し合いの実施 ・活動・広報の支援 ・相談窓口の明確化

④よりよい地域にするための学習・つながりづくり

活動名	目 標	目標達成に向けての取組み
学習・話し合いの場	<ul style="list-style-type: none"> ・民児協、福祉推進員、町自連と研修会を行う ・各種団体同士また市社協、包括支援センター、福祉施設等との連携・情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・平時からの見守りを行い団体間の交流を深める ・災害時の支援体制についても確認する ・毎年、座談会を実施し、生活・福祉課題など情報を共有し、活動に活かす。
たよりの発行	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協・福祉推進員・健康つだ推進隊の認知度をあげる ・情報、資料を収集し住民に提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの役割を広く伝える ・紙面の工夫

第5次津田地区地域福祉計画策定委員会 経過

開催日		内 容
平成30年6月18日（月）	第一回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5次津田地区福祉計画策定についての説明 ・ 今後の委員会の進め方について ・ アンケート調査実施について説明
平成30年7月19日（木）	第二回	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート内容についての検討 ・ グループワーク「現状の把握、第4次計画の評価」
平成30年9月10日（月）	第三回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題と問題点の整理 ・ グループワーク「自分たちでできること（方策）」
平成30年9月下旬		アンケート調査（津田小学校・第四中学校・津田小PTA）
平成30年9月下旬から10月末		アンケート調査（津田地区各町内会自治会）
平成31年1月23日（水）	第四回	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果の評価 ・ グループワーク「方策のまとめ、目標設定」
平成31年3月18日（月）	第五回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5次津田地区福祉計画策定（案）について
随時	事務局会	策定委員会に向けての打合せ

津田地区基本データ

統計データ

	第1次計画策定時 (H13年)	第3次計画策定時 (H21年)	第4次計画策定時 (H25年)	第5次計画策定時 (H30年)
人口	12,805	13,356	13,473人	13,449人
世帯数	4,910	5,611	5,827世帯	6,073世帯
自治会加入率		54.2	51.10%	47.00%
生産年齢人口			8,536人	8,195人
年少人口(15歳未満)			2,024人	1,958人
就学前人口(0~6歳)			979人	825人
0歳児数			158人	158人
65歳以上人口	2,076	2,629	2,913人	3,296人
一人暮らし高齢者数	163	518	526人	819人
高齢者世帯数(人数)	277	510	959人	1,493人
介護認定者数	212	406	492人	646人
<ul style="list-style-type: none"> ┌ 要支援 └ 要介護 	36	119	144人	158人
	176	287	378人	488人

社会資源

(平成31年2月現在)

買い物できるところ (スーパー・小売店)	マルマン、みしまや、ディオ、JAグリーンつだ、コンビニ、ウェルネス、フリーダム、トライアル
金融機関	合銀津田支店、島銀津田支店、JA津田支店
郵便局	津田郵便局、合同庁舎内郵便局
交番・駐在所	津田交番
公共施設 (集会所含む)	(公共施設) 合同庁舎、いきいきプラザ、東津田児童館(集会所等) 東津田一区町内会館、東津田三区町内会館、おとなと子どものふれあいの家(井廻)、高日会館、西津田会館、大山代公会堂、翠ヶ丘会館、東光台会館、湊東台会館、東津田団地自治会館、県営東津田集会所、県営明神集会所
公共交通機関	市営バス、一畑バス、日の丸バス
教育機関(学校など)	津田幼稚園、津田小学校、四中、開星中・高、理美容学校
医療機関	よしの医院、つきざわ内科医院、ほしの内科胃腸科クリニック、ほよほよクリニック、恒松歯科医院、デンタルクリニック大山、吉川歯科クリニック、マザリー産科婦人科医院、嘉本整形外科医院、いきいきクリニック、はっとり皮膚科クリニック、レディースメンタルクリニックー粒の麦、みやげ眼科、つだ胃腸科・内科クリニック
介護保険関係事務所 高齢者福祉施設	(特別養護老人ホーム) 津田の里 (居宅介護支援) 津田居宅、一休庵、サンキウエルビィ (通所介護) 津田通所介護センター、デイサービス一休庵・東津田、あおぞらデイサービス、だんだんデイサービス東津田、デイサービスノワ (認知症対応通所介護) ニチケアセンター東津田 (訪問介護) 訪問介護ステーション蓮香、サンキウエルビィ介護センター松江、津田訪問介護センター、にここへるパーさん、こころねヘルパーステーション西津田 (訪問看護) 訪問看護ステーションデューン松江、訪問看護ステーション蓮香、こころね訪問看護ステーション (短期入所生活介護) 津田の里 (グループホーム) グループホームアンジュ、ニチケアセンター東津田 (小規模多機能型居宅介護) サンキウエルビィ小規模多機能センター松江 (有料老人ホーム) ナーシングホーム、グランなでしこ西津田 (サービス付き高齢者住宅) ケアホームあおぞら、シニアコート西津田、心の蓮
障がい者、その他福祉施設	互助の館(かがやき、せせらぎ、あっぱれ)、放課後デイサービス・ピピ、聴覚障がい者情報センター(いきいきプラザ)

地域の特徴
まとめ

<p>つよみ</p> <ul style="list-style-type: none">• 地区内各団体の事務局体制が整っている• 小学校や幼稚園などが近くにあり連携がとりやすい• 比較的若い世代（幼小Pなど）も公民館活動に参加協力してもらえる
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">• アパートやマンションが多く、転勤等の出入りも多いため自治会加入率が低い• 自治会加入率が低いため、情報伝達が難しい• 坂の上の団地が多く、買い物等に不便を感じる方が多い• 集会所のない自治会は集まる会場がない（公民館まで出かけるのは大変）
<p>地区概要</p> <p>津田地区は松江市街地の東南部に位置し、堀尾氏による松江開府以来、都市近郊部の農業地帯として、住民の大部分が農業によって生計を保ち、かつて「津田かぶ」などの産地として有名であった如く、松江市の重要な野菜その他の供給地であった。戦後、地の利と交通の便、都市近郊の有利な条件に恵まれた当地区は、社会構造や産業構造の急変にともなって、住宅地化、商工業地化していち早く都市化現象の波に洗われ、農業従事者が二次三次産業に転業し、農業離れの最も著しい地帯となってしまった。</p> <p>西津田、東津田を横断する国道9号線沿いには自動車企業のほとんどが進出し、近年開通した松江バイパス自動車道の津田インター付近には、島根県合同庁舎、島根県生涯学習センターが建設され、最近が高層マンションが何棟も立ち並んでいる。そして、東津田地内を南北に走る縁結び大橋だんだん道路も平成24年3月に開通し、津田地区の様相はこれからまだまだ変貌しようとしている。</p>

第4次活動計画ふりかえりシート

グループ	活動名	目標	自分たちでできること (方策) 第5次計画	成果・課題 (第5次策定時)
<p>1グループ</p> <p>①高齢者が安心して暮らし続けることのできる地域づくり</p>	<p>なごやか寄り合い事業</p>	<p>・全地区での組織化 ・出かけやすい雰囲気作り、内容の工夫 ・参加手段の確保</p>	<p>・元気高齢者創出の活動→場所・空部屋の調査を市にお願いする。(空店舗はやっている) ・市から保健師を派遣してもらい、多数参加するようにしてほしい。 ・なごやか代表者情報交換会(2回実施)内容の充実させて実施したら。(他のなごやか会のアイデアを取り入れたい) ・10年前に3地区でやっておられたが、今は11地区になった。今後増えると嬉しい。 ・発足にあたって、町内会・全域に必ずしもわたらなくても、小地区でもよいのでは。 ・東3区は会館有。民生委員、福祉推進員が準備している。内容充実。元気な方が来られる。 ・西津田は会館があるが、階段10段以上あり、大変。町内会の中に福祉部がある。 ・世話する人の負担の少ない方向に。対象者の中で世話しているが、自治会の中から応援する方法を取り入れたい。 ・各地区のなごやか開催時に保健師さんに参加してほしい。 ・健康チェックを各地区へ出かけてほしい。 ・何をするのかスタッフが困られる。お茶と懇談で良いのではないか。気楽な活動で継続させる。 ・世話人もしくは役員1〜2名程度で他のなごやか会の行事の日に参加させてもらい、活動の参考にさせてもらう。</p>	<p>【現状】 ・29自治会のうち、11自治会で実施している。 ・内容について、何かをしなくてはいけない→運営の負担感あり ・集まって話をするだけでも意義がある。 ・男性が少ない。夫婦で出られる人もいる。 ・集会所がない、誘いが来れない、新興住宅地は顔が分からない。 ・会場の不便さ(階段等)があり、空き家など平坦な場所を探せたらと思うが、そういう情報もないので、探せていない。 ・空家の活用でも、維持費や改修の際のお金や持ち主の了承の問題がどうなるか分からない。 ・会場がないところは、ボランティア喫茶を利用しているところもある。 ・内容・人材・財源の確保に問題がある。新しい人を誘うには声掛けにかかっている。 ・内容について、西津田は歌やグラウンドゴルフでわいわいやっている。 ・「全地区に」は無理ではないかと思う。世帯数が少ない町内会もある。 一番初めの趣旨が「みんなで健康・つながろう」なので、地区にこだわることはいらないように思うし、地区一つでなくてもいいと思う。 ・東一区は世話人がいなくて、町内会でやっている。西津田も町内会でやっている。 ・「誰でもどうぞ」という雰囲気づくりをもっとしていくべき。町内会加入者に情報が行きがちだが、未加入者も入ってもらえたらと思う。 それがなごやか発足時の趣旨にも合っている。 ・西津田は「町内会員」ではなく「なごやか会員」として、町内会から離れて手紙を配っている。町内会に入っていない方も来られるが、バス旅行の会費が加入者と未加入者で同じにしていたら、加入者から苦情がでた。 ・活動に来れない方は、情報がもらえない。 ・これまでやって来られた方たちに意見をもらわないと、知らない者が評価するのはなかなか難しい。 【成果】 ・声かけ・案内⇒つながりがあると何かあったときに相談しやすい。 【提案】 ・これだったら出たい内容を聞いてみる。趣向を凝らした内容。</p>
	<p>ボランティア喫茶</p>	<p>・各世代(特に情報が届きにくい人)への情報提供の場として活用させてもらう</p>	<p>・色々な団体の打合せ会等での利用を広げるため、PRを積極的にする。(寿会、福祉推進員、なごやか会など、少人数の打合せ等で気軽に。)</p>	<p>【現状】 ・毎月第一・第三火曜日の月二回定期実施 ・街に喫茶店が少なくなってきている。 【成果】 ・大変喜ばれている。人の楽しみになっている。 ・引き続きやりたい。 ・運営は何年もやってこられて、安定しているので支援としてはPRをしていく位かなと思う。 【提案】 ・ボランティア喫茶の常連グループの方を誰かが世話をしあげてなごやか寄り合いとして支援できる形にしてあげてもよいのでは。</p>
	<p>住民参加のイベント</p>	<p>・既存の地域イベントに積極的に参加する</p>	<p>【カラオケ】 ・毎回10人から15人の参加があるが、もっと参加人数を増やしてほしい。 ・公民館事業として、無料でやられてはどうか。 【踊って歌って】 ・毎回30人から40人の参加がある。 ・最初は市からの助成があったが、現在は会費制で、個人から200円/回と、社協からの補助金有 ・色々な出し物の候補リストを作成して、楽しいものに。</p>	<p>【現状】 ・カラオケ、踊って歌って楽しいかい ・全体ではやっていないが、各団体ではやっている。 ・地区社協として、各イベントにどうかかわっておられるのか部外者には分からないので、評価のしようがない。 【成果】 ・高齢者全体が、は無理だが、来られている方には満足してもらえているのではと思う。 【提案】 ・既存の地域イベントでよいのではないか</p>
	<p>友愛訪問</p>	<p>・子どもと一緒に訪問する</p>	<p>・対象年齢を75歳から70歳に下げると多くの方に来ていただき、喜んでもらえるが、2025年には団塊の世代が75歳になり対象者が増えることが予想されるので、下げなくてもよい。 ・福祉推進員と民生委員が協力してやっている。この負担が増える。 現状でよい。</p>	<p>【現状】 ・75歳以上の独居の高齢者を訪問⇒年齢をもう少し拡大しては ・マンションでは昼間独居が多い。 福祉推進員のいないマンションもある。 ・昔は子どもと一緒に訪問していたが、苦情が出た。 ・子どもと一緒には無理だと思う。方向性の検討が必要。 ・手紙は、はじめはちょこっとくらぶの子どもたちに書いてもらっていた。今は幼稚園の園児に引き継いでもらっている。 【成果】 ・シクラメンをきっかけに話題づくり、関わりの継続に繋がっている ・子どもたちが作ったもの(今は手紙)をつけると、喜ばれる。</p>
<p>ミニデイサービスの充実</p>	<p>・ミニデイサービスの充実</p>	<p>・毎回40人から45人の参加で適正と思われる。 ・現状のやり方でよいのでは。 ・色々な出し物に工夫が欲しい。 ・対象者40〜50名、関係者10〜15名で60名程度の食事の準備が適当と思う。</p>	<p>【現状】 ・現在40名超の参加者がある。(対象者：75歳以上 220人) ・食改さんが昼食を出してくれている ・トイレにたびたび行かれるのが心配。休憩をこまめに取ったほうが。 ・声かけで参加される。 ・声を聴くと、「交通手段がなかなか…」と言っておられる方もいて、タクシーのことを知らない方もおられる。 【成果】 ・もっと広がっていける取組だと思う。</p>	

第4次活動計画ふりかえりシート

グループ	活動名	目標	自分たちでできること (方策) 第5次計画	成果・課題 (第5次策定時)
<p>②地域との触れ合いを通じた子どもの豊かなこころづくり</p> <p>2グループ</p>	<p>ちょこっとくらぶ ぼぶらカンパニー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員、福祉推進員との連携を深める ・しごとチャレンジをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・会の現状の確認と、リーダーを含めた体制づくりを一からしたほうがいい。(リーダーを保護者が担うと、その子が大きくなると会に参加しなくなる) 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休会中(世話人さんの子どもさん成人) ・古志原さんは現在も活動してる。 ・地区におられる障がいのある方の把握や勉強会の必要性を感じる。
	<p>子育て支援 (母子保健推進員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実 ・情報提供体制の強化 ・津田地区子育て応援団チラシの認知度をあげる、広める 	<p>【チラシ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシは母子福祉推進員の顔も載っているので、責任感がでる。 ・町内会によっては、入会時に配っている。もっとチラシや口コミで情報を伝えられるとよい。 【今努力していること】 ・幼稚園の園児数が少なくなっているため、幼稚園との交流事業を増やし、幼稚園へ入ってもらえるよう努力している。 ・津田は転動で来られた方も多いため、くれよんバスから保健師さんへ繋いで、頼るところの少ない方を支援したい。 	<p>【現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援団パンフレットを、地区内のスーパーや病院などで配布・掲示されている ・保健師や助産師をチラシでカバーしているところが〇。充実している <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頼りにされている、母親から相談されることもある。 ・よくされていると思う。
<p>③支援が必要な人をとりまく環境づくり</p>	<p>実態調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民ニーズの実態を把握し、地区課題を考える 		<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉座談会が、地域の課題をさらう意味で機能しているのでは。実態調査はしていないが、地域課題の検討はしている。 ・地域によって、高台の地区は買い物等に関するアンケートをやっている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5次策定時に、小中学生・PTA保護者・自治会へアンケート実施。策定にとても重要な意味を持つ。
	<p>福祉推進員の会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援対象者を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りは信頼が大切で、1年任期だと見守りがうまく機能しない。出来れば2年任期を自治連との話で出してもらえたら。 ・障がいをお持ちの方とのかかわり方が分からず、一歩が踏み出せない。 ・委員同士のつながりという意味では、今まで通りの研修などを維持して、社協さんなどとのつながりも作ってきたい。 【連携】 ・(民生委員)情報をつなぎながら、なるべく漏れのないように対応する。(津田の里)話を聞くだけではなく、何かできることがないか考えていて、たとえばウェスを作って届けるなど、行動をしていけたら。 ・(町自連)福祉推進員が何をしているか分からないという声も聞く。以前町自連の会で市社協の作ったパンフレットを持って話す機会を持てた。今後も委員改選の年度末にPRLして活動内容を知ってもらえるといいと思う。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在78名で組織 会員は退職された方などが多い。 ・日頃からアンテナを立てて対象の方と接しており、必要に応じて民生委員さんなどの関係機関とのつなぎ役もしている。 ・日当代わりに研修時にお茶やお菓子を出している。 ・障がい者や児童にはまだ出来ていない。 ・津田の里さんとの交流を行っている。 ・ミントの会さんの研修にも参加している。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性たちの横のつながりをたいせつに ・有償ではないボランティア (昔は1,000円)
	<p>民生児童委員協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員の活動支援、連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の地区を担当している民生委員が分からないので、距離を感じる。→古志原さんは受持ち地区にチラシを全戸配布しているが、個人情報載ったチラシを配ることは抵抗がある。 ・民生委員に高齢な方が多いのは、退職した方が担っているため。定例会は 平日にある。年1回小中学校へ行き、先生方と意見交換をしている。 ・今年、災害時にどうすべきか、民生委員が何ができるか考えている。町自連と福祉推進員の三者で事前協定が結べたらと思っている。民生委員は避難指示等が出た時に連絡は出来るので、力仕事頼める人があるとよい。役割分担も含めて、ノウハウや情報を共有して話し合える場を作るべき。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23名で組織 (現在欠員1名) (市全体で850名) ・連携強化という意味では、町自連の会でやっておられるような社協の活動等の報告などを民児協でもしたらいいのでは。 ・個人情報の取り扱い⇒責任ある対応が必要。 ・民児協として、欠員が出ている点や、高齢化などの問題を抱えている。 ・市全体でみると委員の中でも、意識の差がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なり手がいない。(津田は一人不足)
	<p>ミントの会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動支援の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方との関わり方が分からないという気持ちは分かる。出てこられるイベントは人によって違うが、理解を進めるためにはふれあいが一番だと思う。 ・動ける人が少なくなっている。仕組みづくりを考える必要があると思う。協力者を増やす。 ・研修というのは会どうしが馴染みやすい。活動しながら交わりあってもいい。 ・「津田地区は障がいのある方に理解がありますよ」という地区にしてほしい。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来は地区社協の事業であったが、現在は自立しており、成果あり。 ・地区社協から独立している現在、4次のところとは形態が変わってきている。 ・4次の時は、当事者をおいといて目標など立てられて、違和感を感じた。今回このシートを見て、こんな目標だったんだと思った。 ・見守りポイントマニュアルなど、何のこと?という感じで、活動からかけ離れている。この目標が立てられた際には話し合いすらもたれていない。本当に生きた計画にするためには、当事者の声を聴くことが重要。 ・人が少なくなっている面はある。会の内容によって、出られる方が出てこられる。 ・連携は取れていない。バタバタして連携する時間も取れていない。社協だけでなく、しらゆりさん、希望の園さんなど関係団体、関わる方が一緒になって進めていけたら具体的だし、活動にも役立つ。 ・社協の会で、ミントの会さんと話が出来ていない。 ・トーンチャイムに参加してやってみると大変良かった。 ・ヘルプマークはどのくらい発行しているのか ⇒平成29年度 35件 平成30年度 122件 (4月～11月) ※市・保健所発行合計
<p>ボランティアの確保と組織化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の推進 		<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行っていない(把握できていない) ・普段行っているボランティアをあえて取り上げることは難しい。 ・自治会で見守り隊など結成している。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを有償にしてほしい。 	

第4次活動計画ふりかえりシート

グループ	活動名	目標	自分たちでできること (方策) 第5次計画	成果・課題 (第5次策定時)
<p>3グループ</p> <p>④「健康づくりのまち津田」を 目指した 健康意識を高める地域づくり</p>	学習・話し合いの場	<ul style="list-style-type: none"> ・民児協、推進員に新たな団体を加えて研修会を行う ・健康福祉に関する講座を引き続き実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防について定期的に、同じことでも繰り返し行う。 	<p>【現状】・定期的に合同の研修を実施</p> <p>【課題】・テーマが難しい。</p>
	たよりの発行	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉推進員の認知度をあげる ・情報、資料を収集し住民に提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進隊のたよりを回覧で出す。(年3回 一回 全戸配布) 	<p>【現状】・年三回地区社協たよりの発行</p>
	健康つだ21	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達の工夫 ・健康づくりの推進と定着化 ・食育を通じた健康づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い方に骨密度測定できる場づくり。 ・骨密度の向上と筋肉をつける。 ・地域の人が日頃からやっている体操があると思うので、無理に講師に依頼しなくても会議の前に数分体操をしながら始める習慣を作ってはどうか。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康体力チェック (公民館で年1回) →中央団地・明神・東光台・東津田3区の4か所で出前健康体力チェック開催 ・参加者少なく、PRが必要 会場の確保 ・健康ウォーキング毎週土曜9時から実施 20数名の参加 福祉たよりでPR 健診カレンダー ・ラジオ体操 うるさいとの苦情で、期間を一週間ぐらいに縮めた。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診⇒受診率向上 (H24年 34% → H28年 49.8%)
【第四次活動計画表に掲載のない活動 (提案)】				
地区社協内体制の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・前回力を入れていなかった事業に今回力を入れてはどうか。 			
福祉関係団体・機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・現在各団体の活動が見えていないので、団体同士でつながっていくことは重要で、知識も増える。津田地区の介護施設の方も交えた連絡会や講座をする。 			
引きこもりの方への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりの方の実態把握をすべき。心の内に意欲や悩みなどを持っている方の相談にのったりできないものか。 			
災害時の支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要支援者の内、41%の方が、個人情報を出してもよいので、見守りを希望している。町内会で名簿の提出を希望しているところがまだ少なく、災害が多発している昨年に支援体制をつくる活動は必要ではないかと思う。 			

「ふれあいの地域づくりアンケート」の結果について

津田地区社会福祉協議会 事務局

「第5次津田地区地域福祉活動計画（平成31～35年度）」を策定するにあたり、平成30年10月から津田地区住民（自治会加入者及び津田小学校PTA）を対象としたアンケートを、実施しました。

調査対象者数などは次表のとおりです。

回答数

	人数
自治会加入者	1,630人（全体の56.8%）
津田小PTA（保護者）	342人（全体の59.2%）
計	1,972人

性別

	平成13年	平成17年	平成30年
男性	238人（28.3%）	600人（49.5%）	750人（38.1%）
女性	597人（70.9%）	607人（50.0%）	1,208人（61.0%）
無回答	7人（0.8%）	6人（0.5%）	14人（0.7%）

対象者の年齢構成(%)

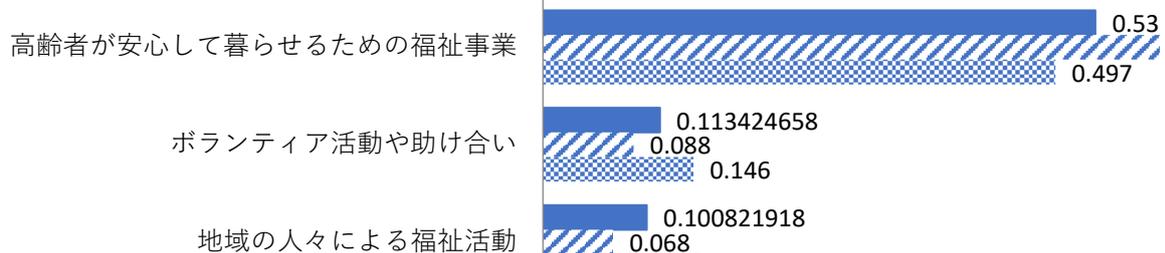
	20歳以下	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台
平成13年	1.4	17.5	19.4	15.6	16.9
平成17年	2.1	7.5	14.5	25.1	25.8
平成30年	0.9	11.5	17.8	15.6	21.8

次からは、福祉に関する住民のアンケート結果の質問6からの項目と所見です。

所見は、福祉活動計画策定委員会のグループワークで出されたものです。

※平成13年と17年に実施した質問項目とほぼ同じ内容にして比較していますが、一部新規の項目

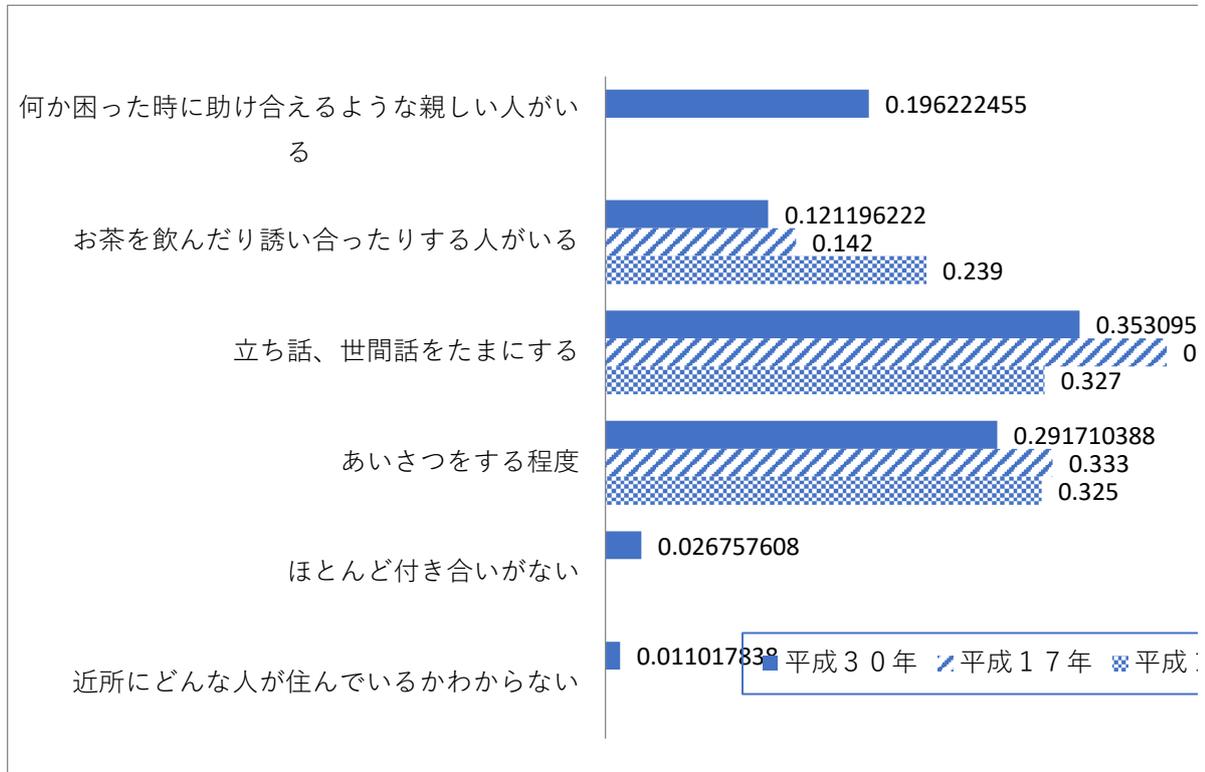
6. あなたは、「福祉」について特に何に関心をもっていますか。





・高齢者が増えてきているにもかかわらず、高齢者の項目に対する関心が減ってきているの
 気な高齢者が増えたことと、民間事業者のサービスや公的サービスを利用しているからと
 えられる。また、「子育て支援」の項目を追加したので、そちらに移った可能性もある。

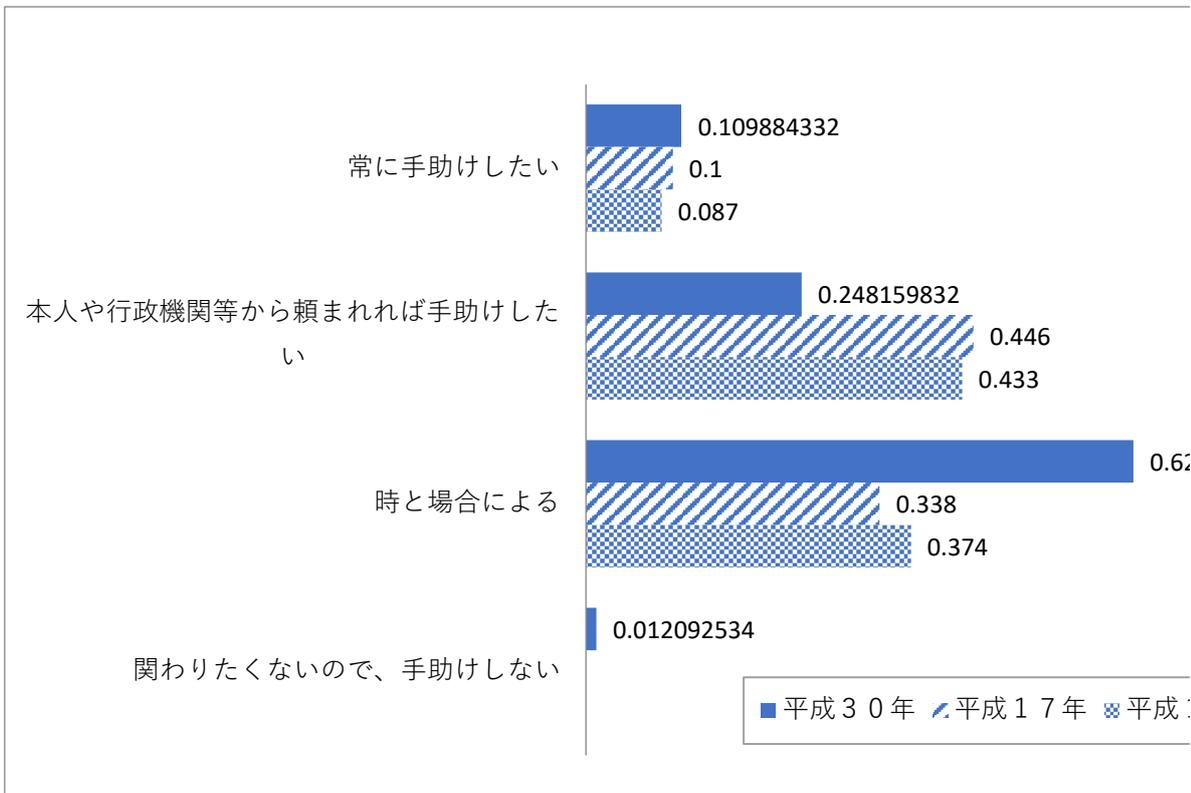
7. あなたはご近所の方とどの程度の付き合いをしていますか。



・助け合いは、近所が大切だと感じるが、上位3項目を足すと67%となり、近所のつな
 まだあることを感じた。

・しかし、近所で昔はお茶に誘うこともあったが、今は立ち話、あいさつ程度が多いと感

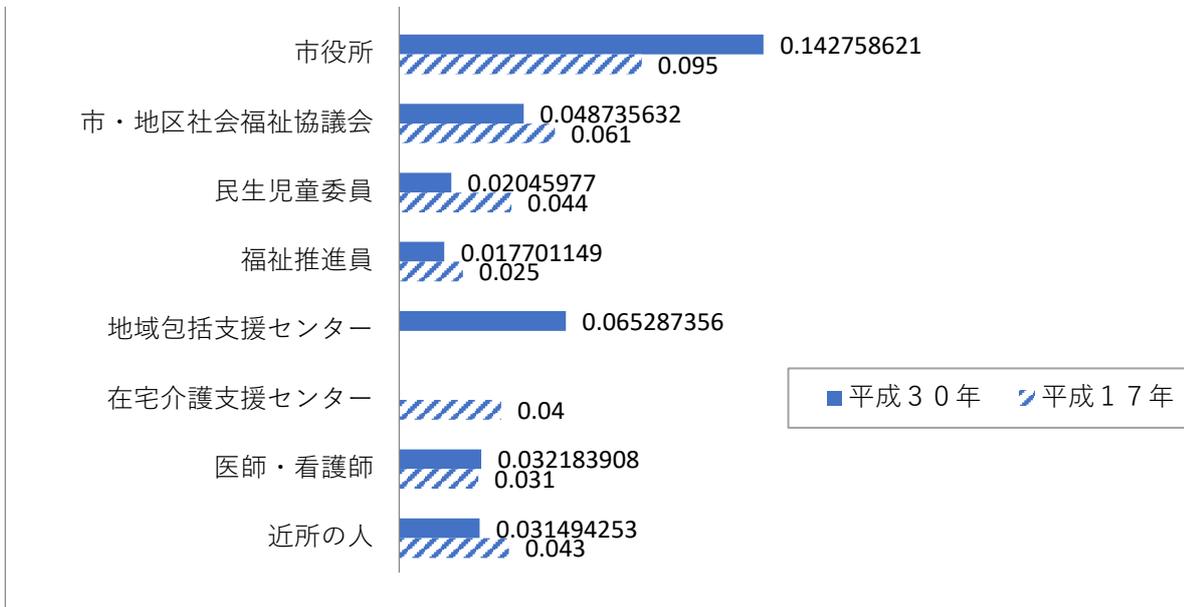
8. もし近所に生活上の悩みで困っている人がいるとしたら、どうし



- ・「時と場合による」が倍増しており、問題も感じる。
- ・しかし、相談内容によっては個人の力では解決できない場合もあるので、行政や自治会生委員に取り次ぐような手助けが重要ではないか。

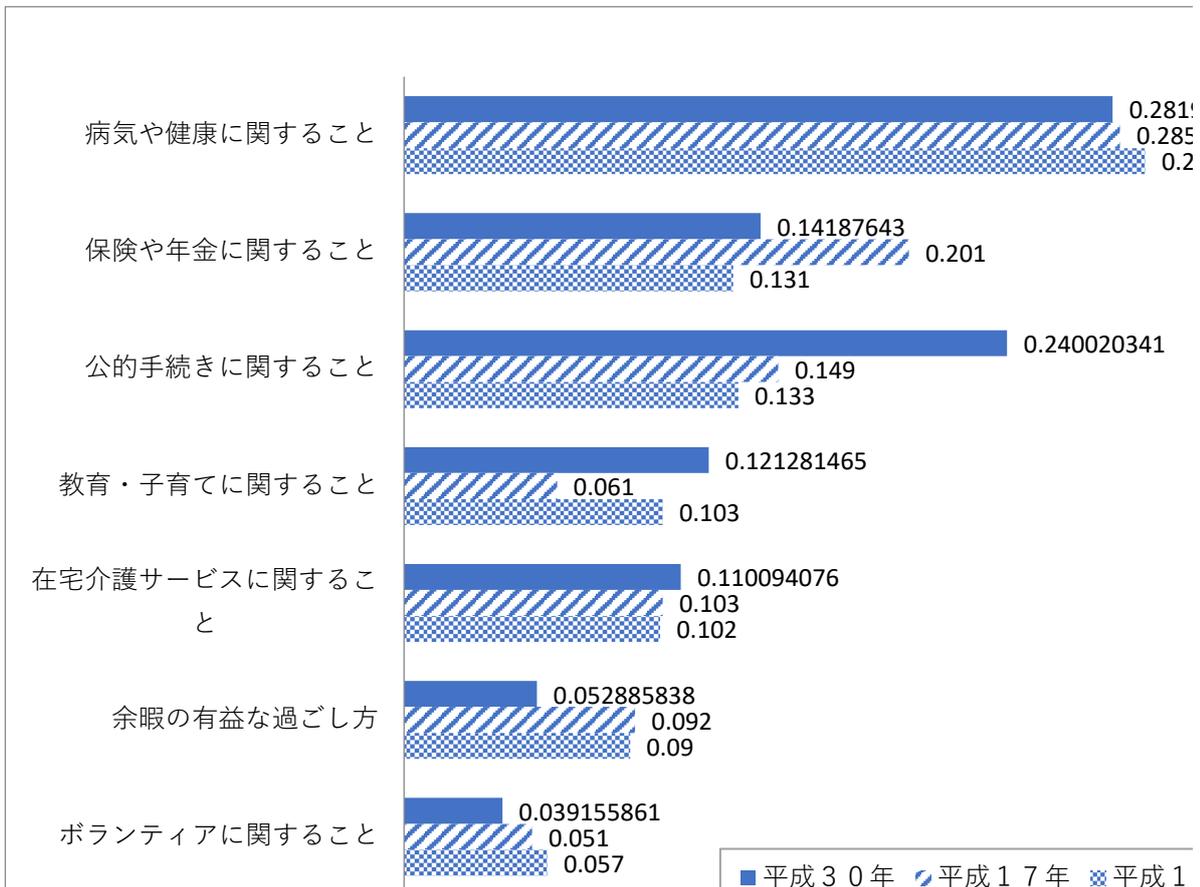
9. 暮らしのことや福祉のことで困ったとき誰に相談しますか。





- ・市役所、包括など行政関係、知人・友人が増えた。
- ・民生委員や福祉推進員が減っており、住民への周知も必要か。

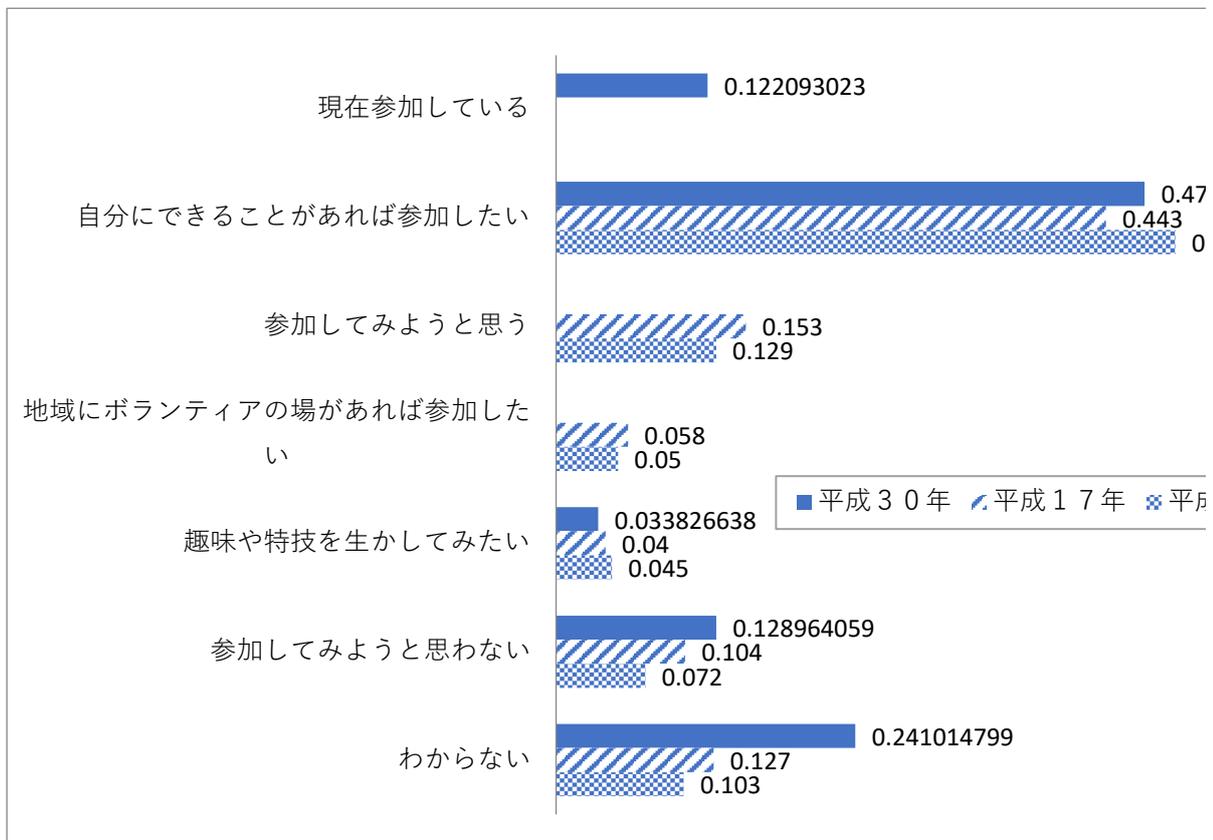
10. 日常生活において、どのような情報があればよいですか。



その他 0.012712942

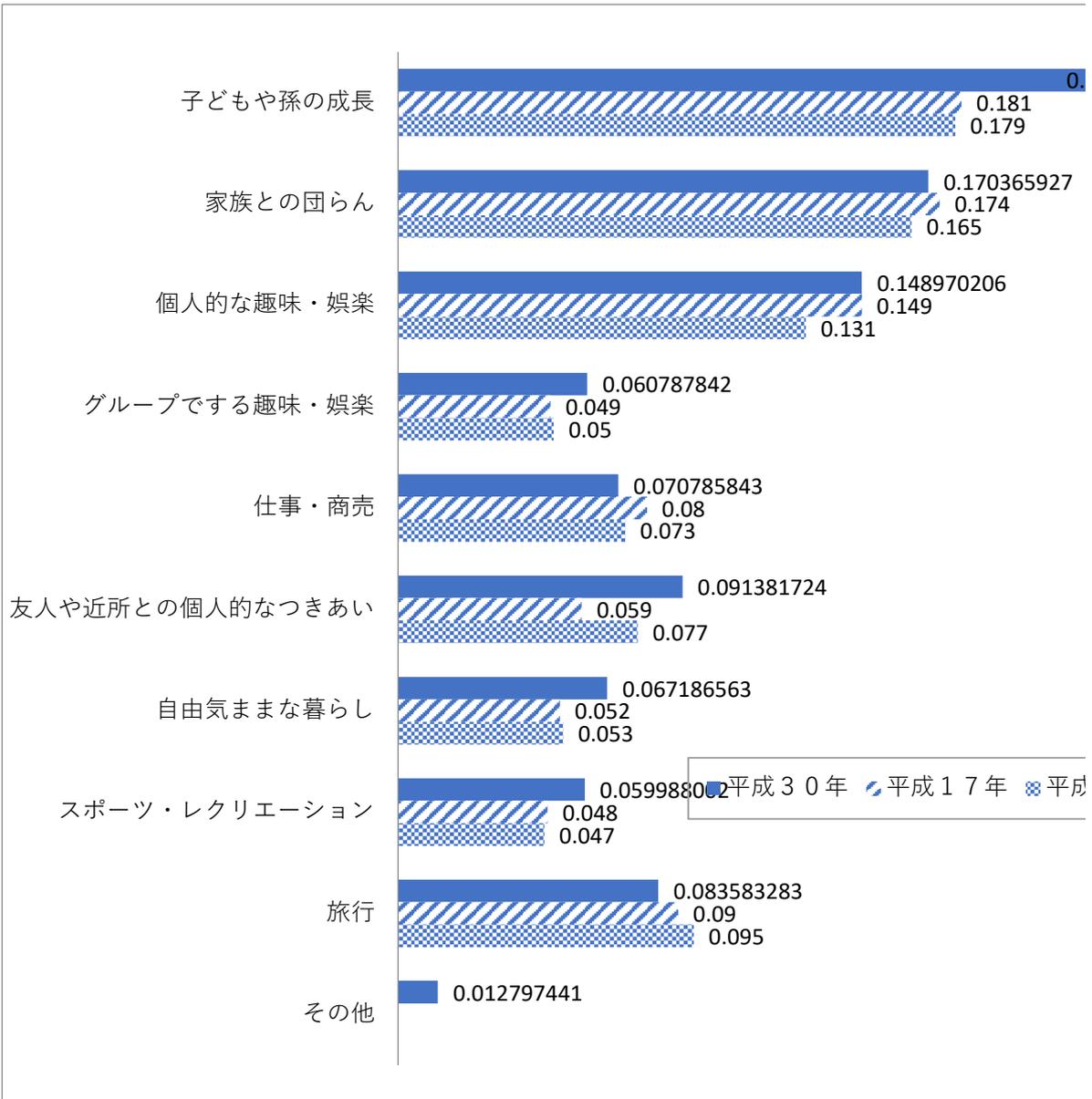
・「公的手続き」や「教育・子育て」の項目が増えている。市報だけでは、ほしい情報をとが難しい。HPを見ることは、高齢者は難しい。

1 1. 機会があればボランティア活動に参加してみようと思いますか。



・「現在参加している」と「自分にできることがあれば参加したい」で6割になるので、ている人、期待できる人が多いという印象を受けた。
・「参加してみようと思わない」、「わからない」人も増えており、ボランティア活動にな人も増えている。

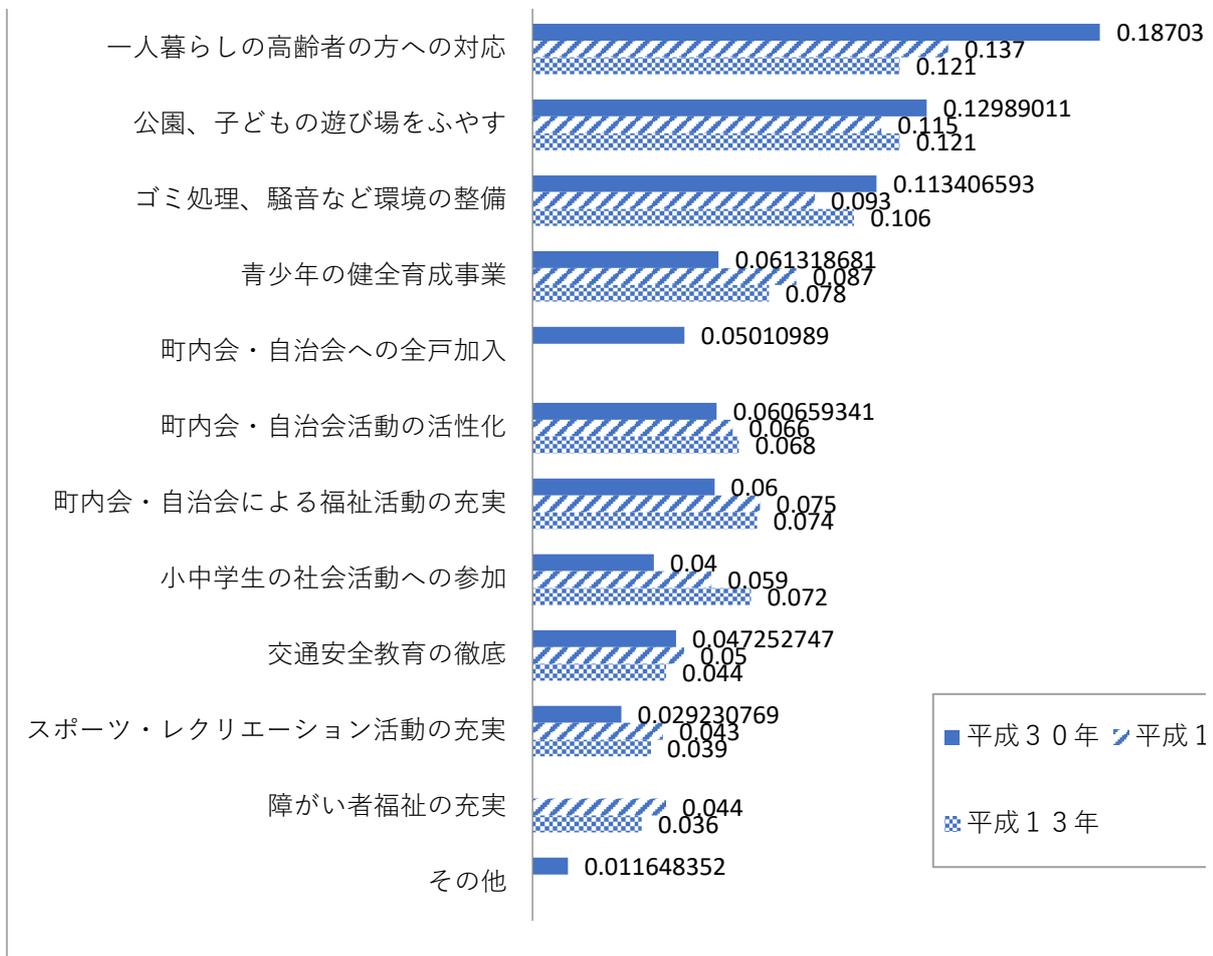
1 2. あなたの生きがいは何ですか。次の中から選んでください。



- ・それぞれの生きがいがあって良い。
- ・「子どもや孫の成長」「友人や近所との個人的なつきあい」が増えている。PTAにアトを配布したことも要因になっていることが考えられる。

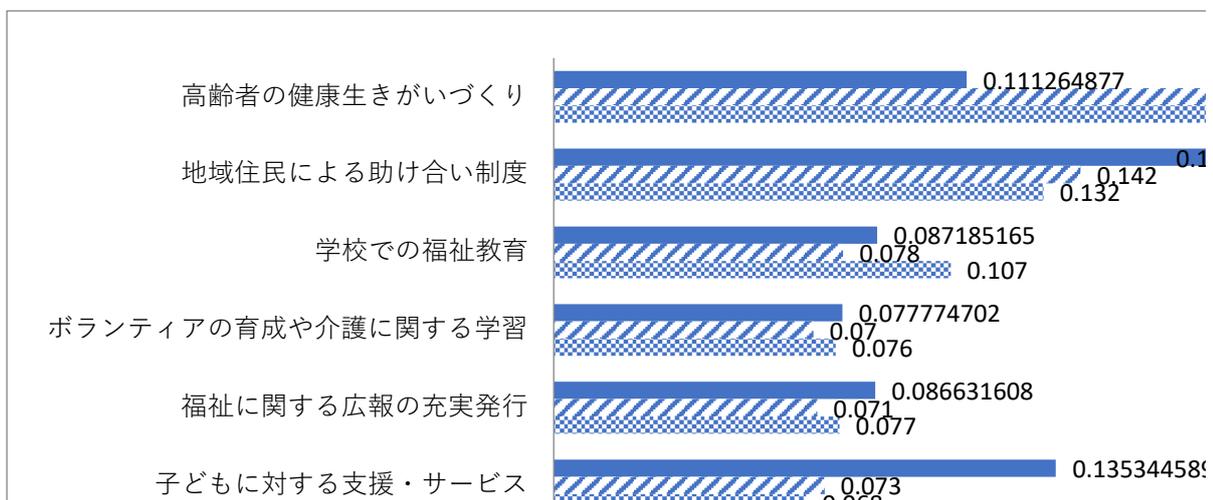
13. 誰もが暮らしやすいまちづくりには何が大切だと思いますか。中から選んでください。

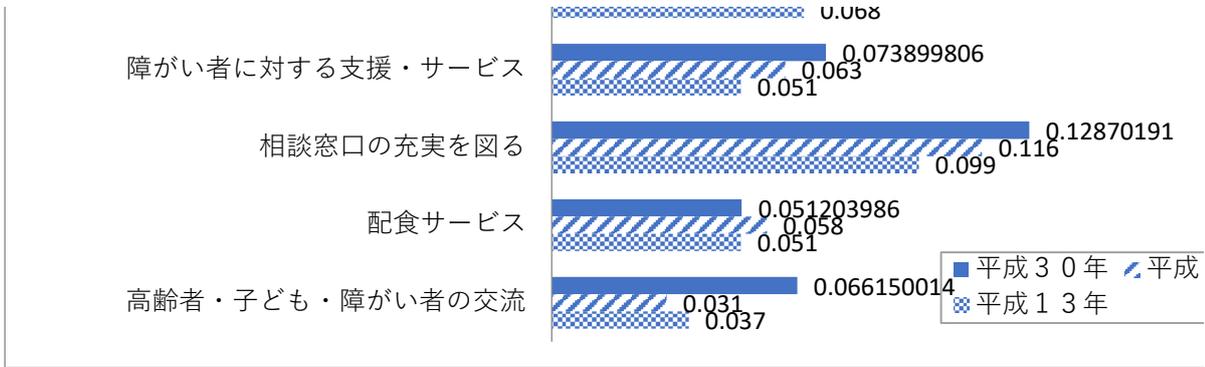




・「隣近所、周辺～」や「一人暮らしの高齢者～」が増加しているし、大きな割合を占め助け合いの意識が増えている、危機感が増えていることが考えられる。

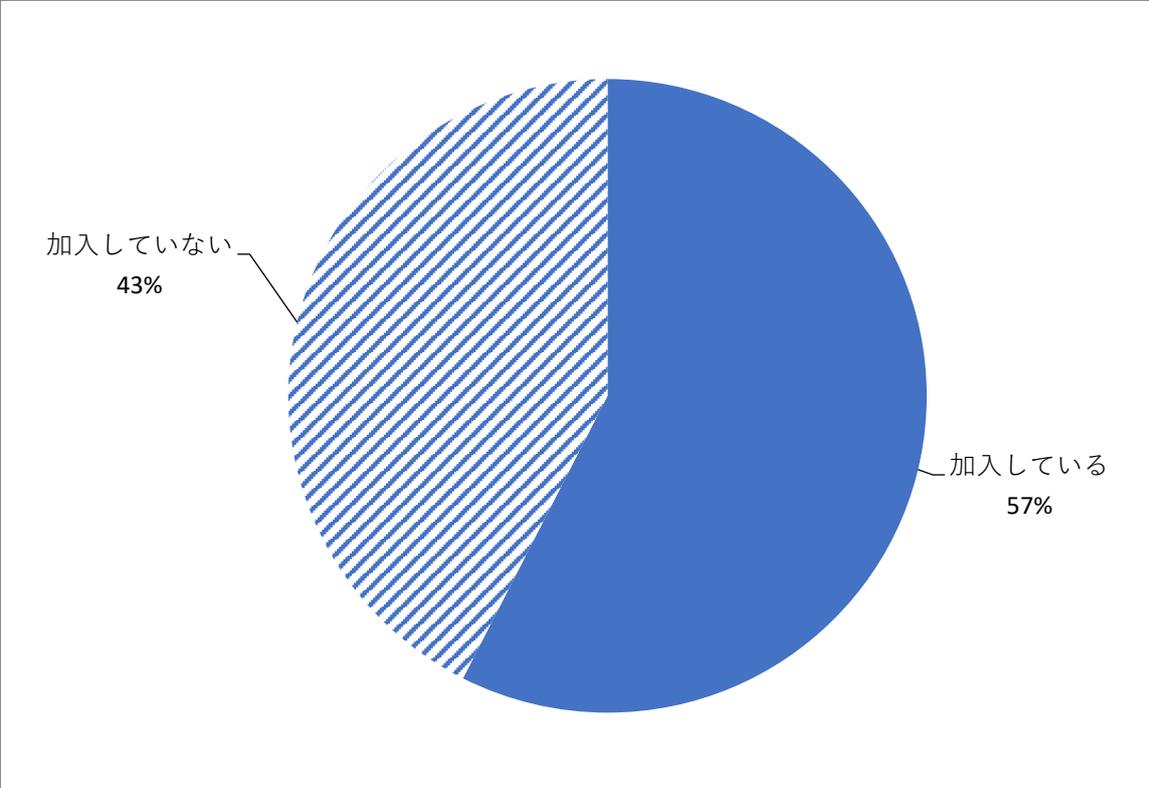
14. あなたが津田地区社会福祉協議会で、特に取り組んでほしいと事業を、次の中から選んでください。





- ・「地域住民による助け合い制度」、「子どもに対する支援〜」、「障がい者に対する支が増えてきている。高齢者より、子ども・障がい者の方へ全体的に比重が移ったようにも見え（PTAにアンケートを実施した要因もある。）
- ・相談窓口が年々増えており、必要性を感じる。

あなたは自治会に加入していますか？（津田小PTAのみ質問）



「1. 加入している人の理由」

- 親が加入しているため
- 加入が当たり前
- 地域とつながりたい、子どもがいるため など

「2. 加入していない人の理由」

- アパート・マンションに住んでいるため
- 忙しい
- お金がかかる
- 必要がない、入り方がわからない、誘われない など

津田地区の住民が取り組むべき課題や問題、地域に対する意見・要望を
ご自由にお書きください。（多かった意見を抜粋）

- ・子ども達がボール等を使って遊べる場がなさすぎる。ゲートボール場だけではなく、子遊ぶ場を作るべき。子どもの外での遊び場を確保するべき。
 - ・この地区は猫の数が多く迷惑しています。何とかしてほしい。
 - ・地域で何か活動をする時、だいたい決まった人達の参加となってしまふ。もっと、他の人達が気軽に参加できるような行事や、地域の雰囲気づくりが必要だと思う。
 - ・つまく言えませんが、若い人の力を借りたい。自治会や町内会など近隣で、今よりいい方を巻き込んで話し合い、楽しい場作りして、老いも若きもがおたがい信頼しあうが出来たらいいと思う。日頃から仲良くなっていれば、大事の時（災害など）知りればきっと、「あの人がどうしてしておられるかな？何かすることはないか」と気にならないうとき気軽に声を掛け合うシステムがあるといいと日頃から思っています。
 - ・いつも小学生の見守りをしていただきありがとうございます。たくさんの方に温かきり、支えていただいて生活ができることに感謝しています。
 - ・高齢者に負担の大きい活動は、人にもよりますが一考すべき。
- 例) 体育会への参加要請、その世話等
- ・高齢者のことばかりで、子供、障がい者に対する事業が少ないと思う
 - ・小学生では耳や手足、目が不自由な方への勉強ほするのにすぐ近くにて接する機知的の方への勉強はなぜしないのかと思っています。今、一学年に1人以上いるのにちへの理解無くして友達や仲良くなることは難しいと思います。

小学生・中学生向け

「あなたのまちを良くするためのアンケート」の結果について

津田地区住民のアンケート実施に合わせて、津田小学校4～6年生及び第4中学校（津田生徒に、別アンケートを実施いたしました。

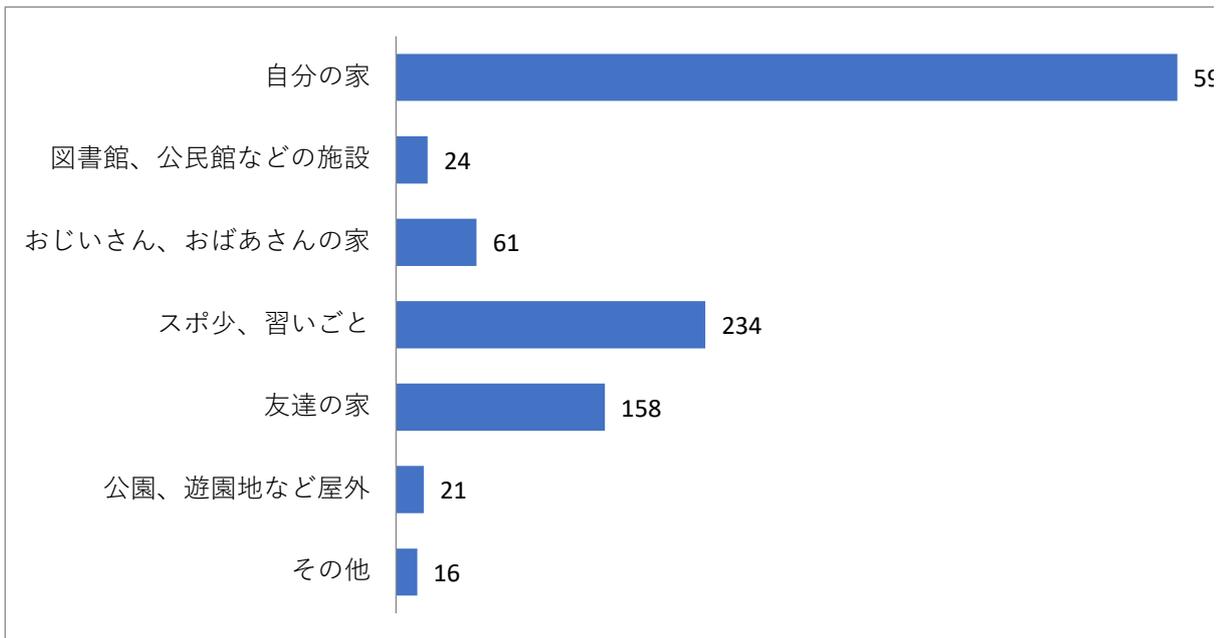
回答数

	人数
津田小4～6年生	350人（全体の96.4%）
第四中(津田小校区生徒)	305人（全体の95.0%）
計	655人

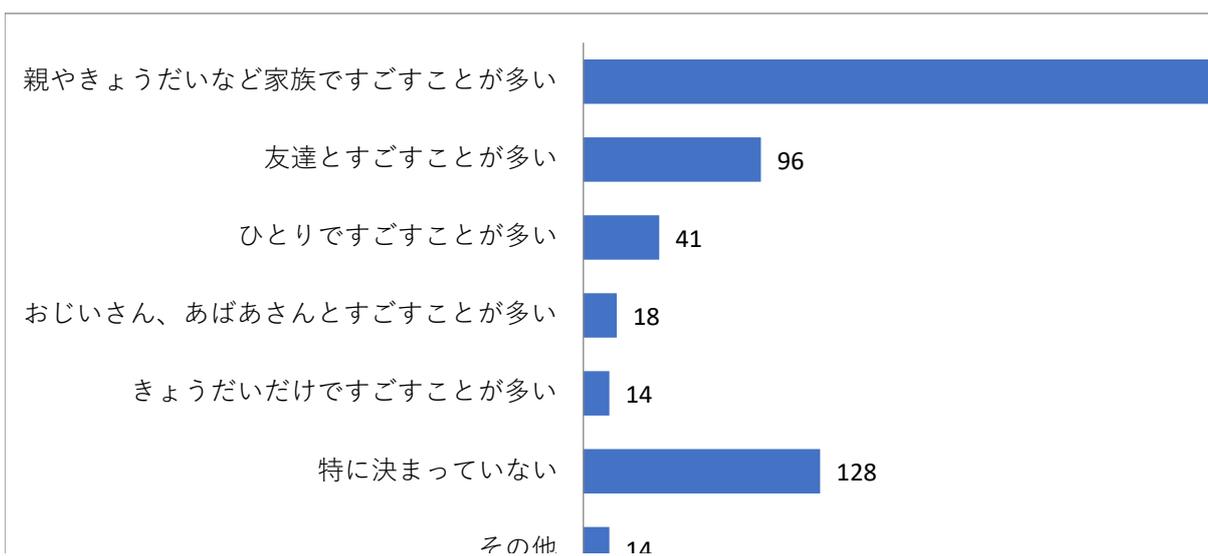
性別

男性	315人 (48.1%)
女性	330人 (50.4%)
無回答	10人 (1.5%)

1 学校が終わったあと、どこですごすことが多いですか？ (あてはまる番号に、ふたつ○をつけてください。)

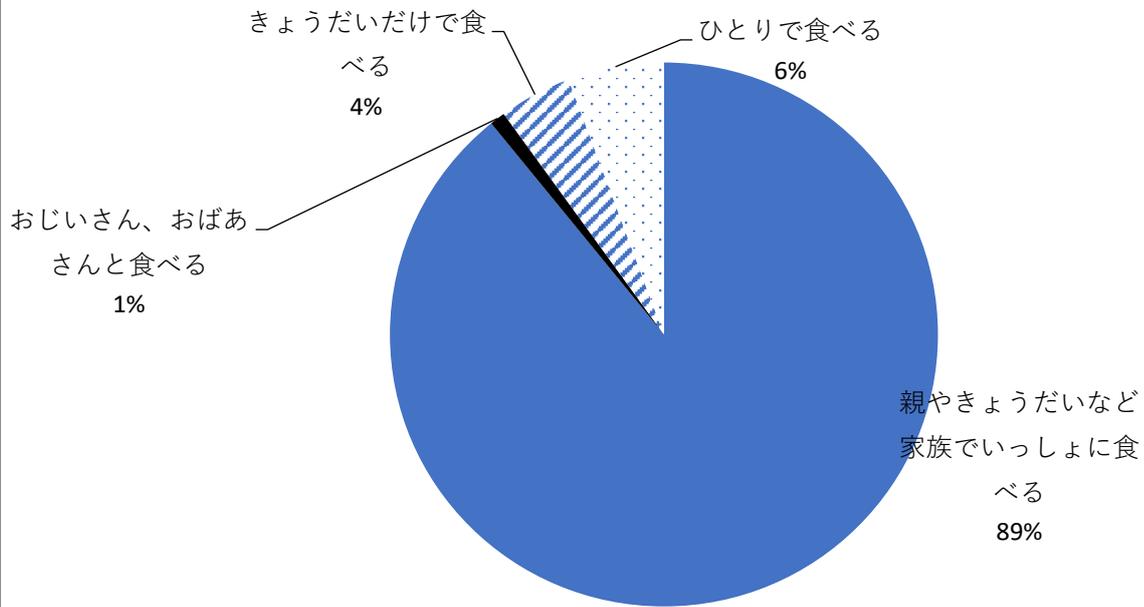


2 土・日曜日は、だれとすごすことが多いですか？ (いちばん多くあてはまる番号に、ひとつ○をつけてください。)



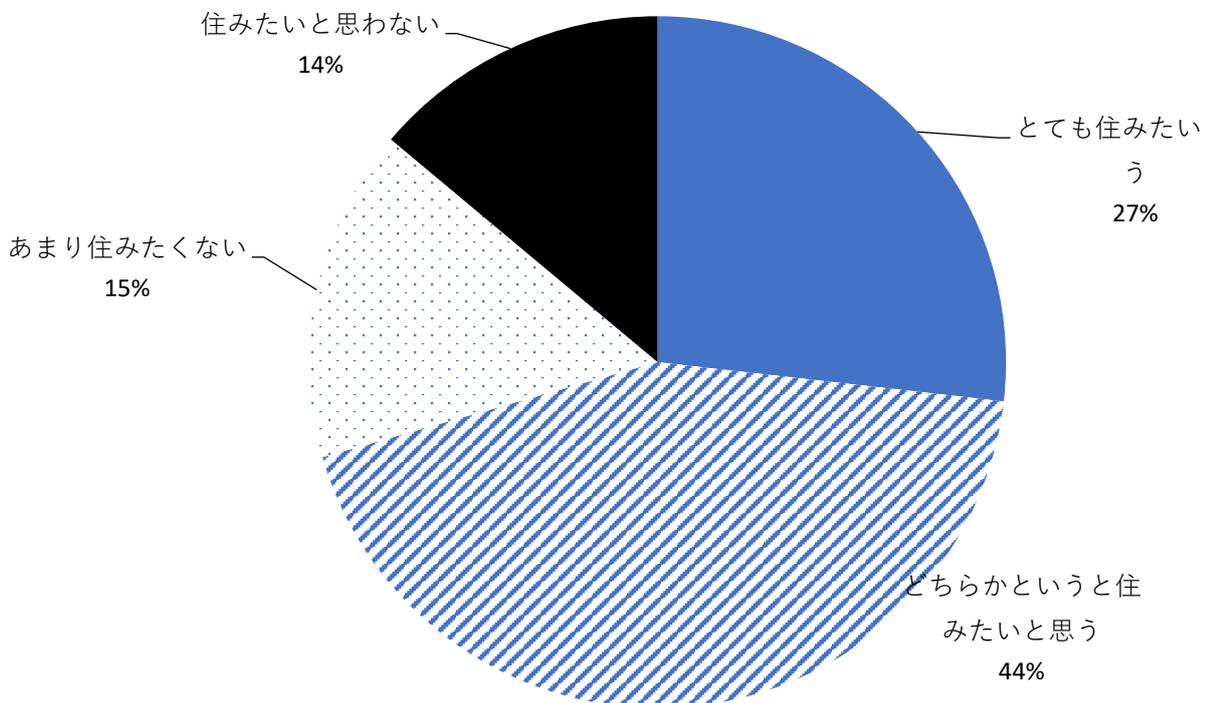
3 晩ごはんは、だれといっしょに食べますか？

(いちばん多くあてはまる番号に、ひとつ○をつけてください。)

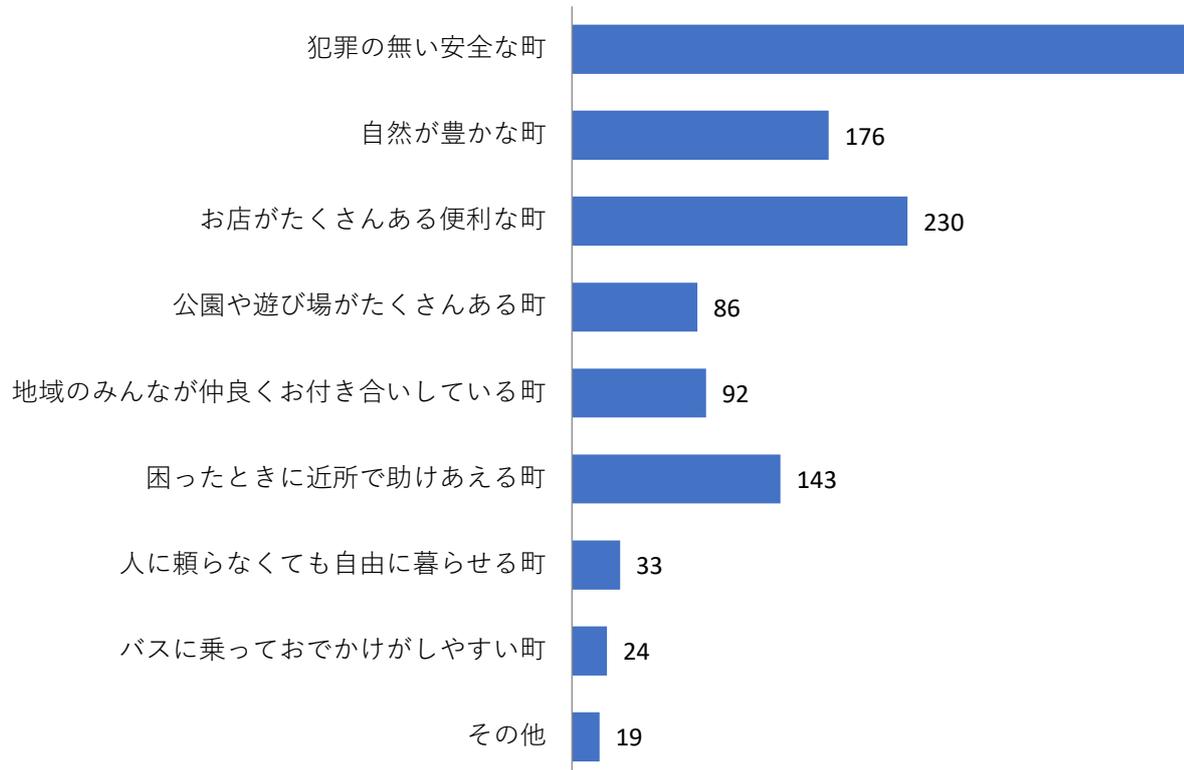


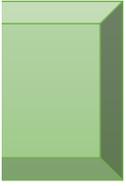
6 あなたは、大人になっても今住んでいる町に住みたいですか？

(あてはまる番号に、1つ○をつけてください。)



7 あなたが「いいね！」と思う町は、どのような町ですか？
(あてはまる番号に、2つ○をつけてください。)





]

30年9
施いたし

30年
38.0%)
(61.3%)
0.7%)

70歳以上
28.4
23.2
32.4

もあります。



5890411
0.653

或13年

は、元
もとら



488
418

13年

がりが
じる。



ますか。

29863302

13年

長、民

33103448
0.324

]



973049
3
195

3年



得るこ



'410148
1,499

成13年

参加し

無関心



234153169

13年

ンケー

次の

09450549

. 7年

ている。

思う

 0.186
 0.182

 1843343

17年

「援～」
る。



など

ども達の

若い世代

もっと若
関係作り
合ってい
る。そう

く見守

会が多い
その子た

(小校区)



31



340



と思



441